

第4章 総括

溝状土坑について

百目木（3）遺跡において溝状土坑が18基検出された。溝状土坑の用途は、狩猟用の落とし穴であると考えられ、対象の動物は鹿と考えられている。

溝状土坑は青森県内では東部に多く西部に少ない「西低東高」の状況が指摘されている（福田2018ほか）。同じ下北半島にあり横浜町に隣接する六ヶ所村においては、発茶沢（1）遺跡（青森県教育委員会1989）のような検出数が100基を超える遺跡が見られ、溝状土坑による狩猟が盛んに行われていたと考えられる。

本遺跡では溝状土坑列が調査区外に続いている状況が見られ、段丘上に多数の溝状土坑が設置されていたと考えられる（巻頭図版、図13、写真14）。近年、横浜町内では横浜北・横浜南バイパス建設事業に伴い林ノ脇遺跡（青森県教育委員会2021）や吹越（2）遺跡（2020年度発掘調査、2021年度報告書刊行予定）で溝状土坑が検出されており、検出数は増加している。

〈形態・規模〉

本遺跡の溝状土坑の計測値は開口部長軸293～420cm、短軸26～102cm、深さ70～156cmで、大きさからみると長軸は300～320cmが比較的多い。短軸は80cmを超えるものは1基（第18号溝状土坑）のみで、それ以外は80cm以内である。深さは90cm以上が多い。

〈配置〉

溝状土坑の分布は南北に分かれる。SV01～17の17基は北側、SV18の1基のみが南側に配置されている。18基のうち主軸方向は真北から西に傾くものが7割を占める。

〈時期〉

溝状土坑から出土遺物はなく、年代測定も行っていないことから、本遺跡の溝状土坑の詳細な時期は不明である。福田友之氏によれば、青森県内の溝状土坑の時期は重複関係等から縄文時代中期～後期前葉とされている（福田2018）。本遺跡から検出した溝状土坑も形態は同様であることから、近い時期に属すると推察される。北側の列の中でSV01・03・06、SV09・11、SV13・15は主軸方位が類似しており、同時期の存在が考えられる。SV09・11は下端の長軸の長さが近似していることから同時期の可能性が非常に高い。SV18は開口部短軸や下端の長軸が長いことや1基のみ離れていることから他の17基と時期が異なる可能性が高い。

〈居住域との関係〉

今村啓爾氏によれば落とし穴の設置場所と設置者の居住地の関係という問題も十分な成果が得られていないと指摘されている（今村2019）。これまで下北半島では発掘調査事例が少なく、百目木（3）遺跡周辺では縄文時代中期～後期前葉の集落跡は確認されていない。図3と表1を見ると、百目木（3）遺跡が立地する牛ノ沢川流域において縄文時代中期～後期に登録されている遺跡が存在している。発掘調査が行われていないので想像の域ではあるが、これらの遺跡に生活した人々が溝状土坑を設置した可能性が考えられる。

（齋藤・藤田）



図 13 溝状土坑配置図

引用・参考文献

- 青森県2005『青森県史 資料編 考古III 弥生～古代』
- 青森県教育委員会1983『青森県の中世城館』
- 青森県教育委員会1973『むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財分布調査報告書』青森県埋蔵文化財
発掘調査報告書第1集
- 青森県教育委員会1984『和野前山遺跡』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第82集
- 青森県教育委員会1985『大石平遺跡』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第90集
- 青森県教育委員会1987『大石平遺跡III』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第103集
- 青森県教育委員会1988『発茶沢(1)遺跡』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第116集
- 青森県教育委員会1989『発茶沢(1)遺跡IV』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第120集
- 青森県教育委員会1994『家ノ前遺跡II・鷹架遺跡II』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第160集
- 青森県教育委員会1994『青森県遺跡詳細分布報告書VI』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第165集
- 青森県教育委員会1997『青森県遺跡詳細分布調査報告書IX』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第227
集
- 青森県教育委員会2000『モダシ平遺跡』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第271集
- 青森県教育委員会2000『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第287集
- 青森県教育委員会2021『林ノ脇遺跡』青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第620集
- 今村啓爾2019「総論 陥し穴研究の展開」『月刊考古学ジャーナル』12月号
- 角鹿扇三・渡辺兼庸1980『角鹿扇三蒐集考古学資料集』
- 福田友之・工藤清泰・木村浩一1986「南部町聖寿寺館・十和田湖町三日市館・横浜町牛ノ沢館等発見
の陶磁資料」『弘前大学考古学研究』3
- 福田友之2018『東北北部先史文化の考古学』同成社
- 藤原秀樹2013「Tピットについて」『北海道考古学』第49号
- 藤原秀樹2018「北海道のTピットについて(続)」『様似郷土館紀要創刊号』
- 藤原秀樹2019「北日本の動物相と陥し穴」『月刊考古学ジャーナル』12月号
- 横浜町教育委員会1983『桧木遺跡発掘調査報告書』